

2023年3月期第1四半期 決算説明会での主な質疑応答の内容
(2022年8月1日開催)

* 前期(2022年3月期)、今期(2023年3月期)、来期(2024年3月期)
1Q(第1四半期)、2Q(第2四半期)、3Q(第3四半期)、4Q(第4四半期)

1. 今期の業績

【1Qの業績】

Q : 1Qの全体感として、計画比で良かった点と悪かった点を教えてほしい。

A : 「コアコンポーネント」や「電子部品」は総じて良かった。市場別では、自動車向け以外は全体的に好調だった。自動車向けは、EV関連の部品は増産傾向が続いているが、内燃機関用の部品や車載カメラは自動車の生産量に合わせて減少しており、良かった部分と悪かった部分の明暗がはっきりしていた。自動車向けの部品全体では若干増加した。

「ソリューション」では、「機械工具」や「ドキュメントソリューション」は、期初の想定を少し上振れた。「コミュニケーション」は、携帯電話端末の国内販売台数が大幅に減少したことにより落ち込んだ。「ソリューション」の「その他」に含まれる「スマートエナジー」は、予定していたメガソーラーの案件が遅れているため、計画比では減少した。

Q : 1Qの営業利益は通期業績予想の1/4程度の進捗率であり、計画に対して若干上振れしていると思われるが、どうか。

A : 想定以上に円安が進んだことにより、少し上振れた。為替の影響を除けばほぼ想定内。

Q : 稼働率が上がったことによる利益への影響は、どのセグメントに表れているか。

また、2Q以降の生産の見通しを教えてほしい。

A : 「コアコンポーネント」は前年同期比で2倍近い増益となっているが、生産の自動化も含め、増産効果が増益の5割程度寄与していると思われる。残りは主に円安の影響。生産については、設備の導入に伴い2Q以降も増加する方向にある。

【2Q以降の事業環境見通し】

Q : PCやスマートフォン等の民生品は先行きが不安視されているが、これらの市場の動向をどのように見ているか。

A : 携帯電話市場全体としては良くないと思う。中国市場が良くないが、当社のスマートフォン向け部品の同市場向けの割合はあまり高くないので、大きな影響は受けていない。この状況は2Q以降も変わらないものと想定している。

半導体関連市場では、古い世代の汎用品については供給過剰になりつつあるが、最先端の半導体については、引き続き需給がひっ迫している状況。2Q以降も当社の半導体向け部品は好調を維持するものと考えている。

Q：「コアコンポーネント」と「電子部品」の業績が好調だが、2Q以降は例年通り、ハイエンドスマートフォン向けに需要は増加するのか。

A：例年2Q、3Qに需要は増加するが、その傾向は今期も同じだと考えている。また、今期については、1Qに自動車の生産が低かったので、2Q以降は車載関連部品の回復も見込まれる。スマートフォン向け部品が少し下振れたとしても、車載関連部品でカバーできると考えている。

Q：サプライチェーンにおける在庫の状況は、車載カメラ等の自動車向け部品の需要に影響しないのか。

A：内燃機関用センサーなど、部品によっては在庫が多くなっているという情報もあるが、当社が供給している車載カメラは、半導体不足の影響もあり、在庫過多という状況ではない。一部の部品は在庫調整で苦勞するかもしれないが、全体としては改善していくと考えている。

【在庫の状況】

Q：今期1Q末の棚卸資産が前期4Q末比で約750億円、前期1Q末比で1,500億円超増えているが、何が増えているのか。

A：部品関連の事業は好調だったので全体的に増加している。特筆すべき点は、「ドキュメントソリューション」。この在庫は、海上輸送（物流）の問題もあり、通常と比較するとかなり大きく増加している。

2. セグメント別の状況

【コアコンポーネント】

Q：半導体関連の事業は好調だったと思うが、良かった点と悪かった点について教えてほしい。CMOSや高周波系に使用されるパッケージは、中国のスマートフォン市場の影響を受けていないのか。

A：当社は半導体製造装置用部品を最先端市場向けに供給しているので、当面は良い状態が続く見通し。有機パッケージも同様に最先端向けが多いので、引き続き堅調に推移するだろう。汎用品の半導体は供給過剰になり始めている状況だが、幸い当社はその部分にはあまり供給していないので、影響は軽微だと考えている。

CMOS向け等のセラミックパッケージは、全ての携帯電話端末メーカーに供給しているわけではないが、いま客先より得ている情報では好調に推移するものと予想している。

携帯電話端末以外にも、監視カメラやデジタルカメラ向けなどが比較的好調に推移しており、大きな問題はないと考えている。

Q：CMOS 向けセラミックパッケージは、客先における在庫も心配ない水準と考えて良いか。

A：当社が供給しているパッケージについては、在庫が潤沢な状況ではないと認識している。

【電子部品】

Q：「電子部品」の1Q業績が前年同期比で改善しているが、「京セラ電子部品」と「KYOCERA AVX Components Corporation」（以下、「KAVX」）では、それぞれどのような変化があったのか。

A：両社ともに改善している。円安の効果もあり、利益についてはKAVXが比較的大きく改善した。

Q：KAVXにおいて、タンタルコンデンサの売上はどのように変化しているのか。2Q以降も拡大が続くと考えているか。

A：タンタルコンデンサは、SSD用に増えている。今般、ローム株式会社よりタンタルコンデンサの事業資産を取得することになったため、下期以降はさらに増加する見込み。

【ソリューション】

Q：「機械工具」の売上がかなり伸びているが、2Q以降もこのまま推移するのか。

A：切削工具がコロナ禍の落ち込みから急回復しており、非常に良い状況が続いている。2Q以降も堅調に推移すると見込んでいる。

Q：「コミュニケーション」の携帯電話端末事業は今期いっぱい厳しいとの見通しだが、来期以降の事業改善に向けた取り組みを教えてください。

A：各社とも5G端末への切り替えを進めており、当社も5G対応の新製品を投入していくことが1つの手段。また、BtoBに軸足を置くため、携帯電話端末も法人向けに販売を強化していく。さらに、既に発表している、ソフトバンクグループ株式会社と共同で行っている5Gのミリ波を活用したバックホールシステムなど、インフラ分野へ軸足を少しずつ移しながら、通信事業を成長させていきたい。

Q：「その他」の収益がかなり改善しているように見えるが、理由を教えてください。

A：「スマートエナジー」に加え、「プリンティングデバイス」のインクジェットヘッドなどの収益性も改善している。「ソリューション」の中でも部品に近い事業が改善している。

将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての2023年3月期第1四半期決算説明会開催日（2022年8月1日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。詳細は、当社ホームページに掲載の「将来の見通しに関する記述等について」をご参照ください。（<https://www.kyocera.co.jp/ir/disclaimer.html>）